

カリスマ美容師やカリスマ主婦の出現以来、カリスマの宗教性は低落傾向にある。かつて、カリスマと形容されたのは傑出した指導者や宗教家だった。だが、いまでは庶民的なカリスマが横行している。

カリスマの語源はギリシャ語にあり、使徒パウロは「神の恵み」という意味でつかっている。それを特別な恩寵をうけた人物に適用したのはドイツの偉大な社会学者マックス・ウェーバーである。彼はカリスマ的支配という類型を提示し、合法的支配と伝統的支配に対比させてみた。

カリスマ的支配でイメージするのは奇跡を次々におこしたイエスであり、アッラーの

啓示をあざかった預言者ムハンマドである。ナボレオンやヒトラーのような英雄もその列に加わる。人びとは指導者・支配者のカリスマ的資質に全幅の信頼をおき、有無をいわずに帰依・服従する。

近代日本の宗教家にもカリスマ的と称される教祖や指導者が輩出した。天理教の中山みき、大本の出口なおや出口王仁三郎はその筆頭である。天照皇大神宮教の北村さよや生長の家の谷口雅春にもそうした雰囲気漂っていた。カミの言葉を直接うけとり伝える能力がその前提にあり、旺盛な文章活動や神がかったパフォーマンスがそれに輪をかけた。

他方、キリスト教界にも20世紀後半にカリスマ運動と総

新世紀リードする人間類型

なかまき ひろちか
中牧 弘允

カミ・ホトケはどこへ⑥

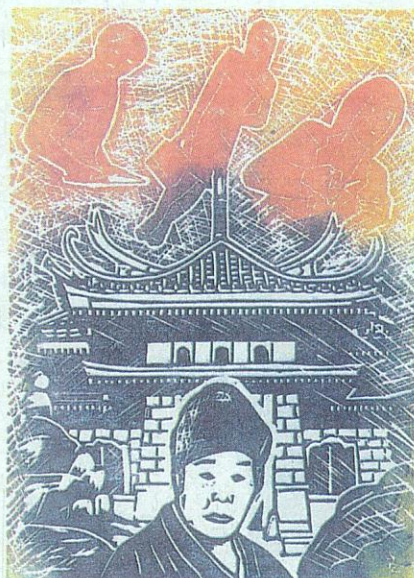
カリスマ

称される現象がおきた。聖霊による異言(不可解なゴトバを忘我状態で発する現象)や悪魔払い、信仰治癒を強調するところはペンテコステ派と共通するが、カリスマティックスは従来の所属教団にとどまることにおおひ。カトリック教会にもカリスマ的リニエ

ール運動がおこり、とくにフィリピンや米国のヒスパニック系信徒のあいだに広まった。ところが、1990年代頃から日本やアメリカでは、カリスマの神通力は宗教界や政界にとどまらず、ファッション界や映画界にも拡大するようになった。美容師やモデル、

タレントや俳優、教師や店員がカリスマとしてもはやさればじめたのである。カリスマ風になるためのノウハウをおしえるホームページすらある。わたしはそこで「カリスマの増進はアート(芸術)であ

る」という文句に出会った。どうやらカリスマの価値が下落したというよりも、カリスマの性格が変わったようだ。カリスマはアートとしての新しい位置を社会に見出したのかも知れない。



版画・田主誠

というのも最近、アメリカの都市経済学者リチャード・フロリダが提起したクリエイティブ・クラス(創造的階級)の問題が日本でも話題になっているからだ。フロリダによると、これからはクリエイティブな能力をもつ人びとが経済を牽引し、そうした人びとをひきつける都市が「国や企業ではなく」繁栄すると予測する。

そして、経済的發展はもはや技術や情報ではなく、人間の創造性に依存すると断言し、三つのTをその指標として提示する。それは技術(Technology)、才能(Talent)、寛容性(Tolerance)であり、とくに最後のTが新時代には必要不可欠だと論じる。そして移民、芸術家やゲイに寛容な地域こそ経済成長をとげていると結論づけ、そのゲイ指標が物議をかもした。

ここではゲイが問題なのではない。もしカリスマとよばれる人物が、美容師であれ主婦であれ、クリエイティブな意味でのアーティストであるとするならば、そうした人間類型こそ新世紀をリードする、ということがポイントである。一世紀前にはウェーバーですら予想だにできなかったけれども。(国立民族学博物館教授・宗教人類学)